

岡山県における農村リゾートの研究

笠木 秀樹（美作女子大学）

I. 研究の目的

農山村リゾート整備の背景として、バブルの崩壊により、総合保養地域整備法（以下、リゾート法と略す）による大規模リゾート開発が挫折した反省とともに、農山村に大きな打撃を与えた自由化、国際化の波が、さらなる過疎化と高齢化に拍車をかけたその対策として新政策としてグリーンツーリズムが推進されてきたことにある。

このようなきびしい情勢の中で、全国的にも農産村地域の地域活性化を図る模索が続けられている。岡山県においては、全国に先駆けて平成元年度より、農村型リゾートの整備事業が進められており、県下17箇所において地域の特性を活かした取り組みがみられる。

観光現象の研究は山村順次らの研究によって盛んになり、リゾート法の制定を契機として再び盛んとなり、リゾートに関する研究が淡野明彦(1986)らによって展開され、森滝健一郎(1991)、溝尾良隆(1991)によってリゾート開発の実態やその問題点が論議されてきた。特に農山村振興の視点からの研究は中島直子(1991)、中藤康俊(1991)らの研究にみられるが、観光開発が農林業の発展にどのように連動しているか、その究明には課題が残されている。そこで本稿では、中山間地域におけるリゾート開発の事例として英田郡作東町小房、中央町大井和の2地区を考察していく。

II. 研究の方法

岡山県における農村リゾートに関する資料収集とともに、農村リゾート対象地区において現地における観察、行政担当者および現地住民に対する聞き取り調査によって農村型リゾート開発の組織や計画、さらに具体的な実践活動から、中山間地域のレジャー・レクリエーション化の実態を明らかにするとともに地域活性化の成果を考察する。

III. 結果および考察

1. 岡山県の農村型リゾート整備事業の概要

(1) 目的

岡山県における農村型リゾートは、中山間地域の振興を狙いに農漁村の豊かな自然を生かし、都市住民向けに「体験型保養地」として整備されている。岡山県は農村型リゾート事業の目的として「全国各地の民間企業者によるリゾート開発が進められているが、その内容をみるとゴルフ、スキー、マリーナ、ホテルといったものを組み合わせた大規模なスポーツ型の施設となっている。こういった施設の整備も重要であるが、一方では自然とのふれあいができ、心身ともにリフレッシュできるリゾート地の整備も強く求められている。幸い、岡山県には美しい自然や農村集落が多く残っているので、リゾート客が美しい農産漁村の生活を体験しながら地域住民とのふれあいを深めることができる、全国的にもユニークな新しい形態のリゾート地の整備を行なう。」¹⁾としている。

(2) 事業内容

事業主体は市町村となっており、市町村からの事業申請を県が審査し、整備対象地域として指定されている。対象地域としては次の3条件を満たしていなければならない。²⁾

- ①優れた農産漁村のたたずまいと風情を残している。
- ②山、森林、溪流、滝、川、海辺など、付近に豊かな自然がある。
- ③事業の実施と運営について、市町村、地域住民の協力が得られる。

指定を受けた市町村は、次のような施設整備について県の補助を活用して、3年以内に、5,000万円を上限として、事業費の2分の1以内の補助をしている。

- 1) 宿泊施設（農家の改築、空き家・廃校の活用、ログハウス・ロッジの建設など）
- 2) 体験、交流施設（農園、果樹園、共同作業場、多目的広場など）
- 3) 自然環境整備（茅葺屋根、小川のせせらぎ、水車小屋の復元、蛍や魚のすめる護岸の整備）
- 4) 事業推進に直接必要なソフトなどを行なう事業

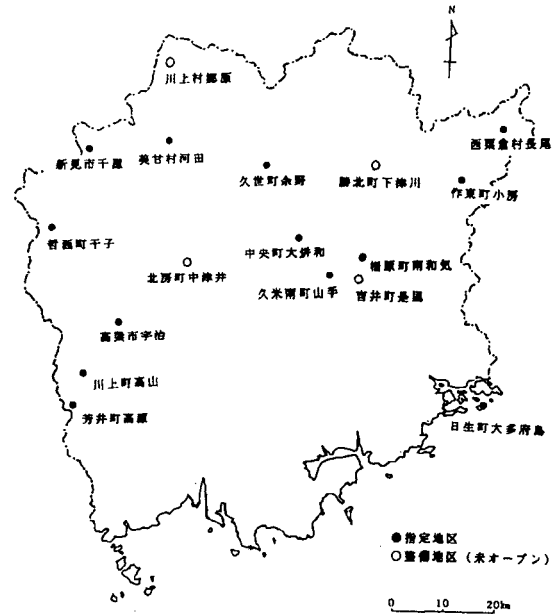


図1 農村型リゾート指定地区の分布

(3) 指定地域³⁾

指定地域は図1に示した計17地区、平成元年度を初年度として川上町高山、美甘村阿田、久米南町山手、西粟倉村長尾、作東町小房の5地区、平成2年度は芳井町高原、新見市千屋、中央町大坪和の3地区、平成3年度は久世町余野、平成4年度には哲西町干子、高梁市宇治の2地区、平成5年度には日生町大多府島、平成6年度は柵原町南和気、勝北町下津川の2地区を、平成8年度には吉井町是里地区、川上村郷原地区の2地区が追加された。このうち13地区が現在オープンしている。

2. 作東町小房地区の事例

(1) 作東町小房地区の概要³⁾

岡山県の北東部、兵庫県に接する谷間の静かな山村。小房地区は同町の中心部から約20Km離れた同町の北端、標高200～300mの山間地に位置する。総人口153人、総世帯数59戸、そのうち43戸が農家であり、農家率は約73%（作東町全体では約59%）とかなり高い。また、このうち専業農家は2戸、第一種兼業農家が5戸、第二種兼業農家が36戸であり、近年、特に第二種兼業農家の割合が高くなっている。耕地面積は31ha（田23ha、畑8ha）で

あり、水稻、黒大豆の生産が中心になっている。交通条件は、中国縦貫自動車道が町中央部を横断しており、最寄りの美作 I・C から町中心部までの距離は 5 Km 程度であり、町内への I・C の建設予定もあり、京阪方面への交通の便は比較的良いが、瀬戸内海側へのアクセスは若干不便である。

(2) 農村リゾートへの取り組み

小房地区の営農組合は、転作等の作業によって醸成された共同意識を通して、営農組合内に昭和62年、地域活性部を設置し、農村リゾート開発に向けて住民の意見を収集し、リゾート公園構想をまとめた。当初は住民の奉仕によって、水車小屋、炭焼き窯、菖蒲園等を整備した。平成元年に指定となり、整備事業によって此田池とその周辺を整備した。3年間で農家の改築、紙すき実習棟、ログハウス、遊歩道等を整備、美しい自然が残った自然の中で農村の伝統文化が体験でき、学習できる環境が整った。

宿泊・研修施設は4施設あり、施設利用者はオープン以来着実に伸び、有料利用者は年々増え、平成7年度には年間7,000人に上り、利用者との交流で地域に活気が出てきた。特に利用者の半数以上が京阪神を中心とした県外利用者である。1回の滞在日数は1～2泊がほとんどで、夏期に多く冬期は少ないように年間を通した利増が課題である。なお、宿泊施設の年間稼働率は10%台である。

特色としては、営農組合による地域住民の活動が地域活性化の活力となり、リゾート整備、運営などの組織づくりやリゾート整備、さらに稲作経営の合理化などに成果を見いだすことができる。

リゾート開発に伴い、地域の美化や環境保全、伝統文化の復活など生活充足度を向上させているが、住民の高齢化が課題であり、今後、地域の特産物の創出とそれを取り入れたリゾート振興が望まれる。

3. 中央町大坩和区の事例

(1) 中央町大坩和地区の概要⁵⁾

岡山県の中北部に位置する大坩和地区は棚田の中に農家が点在する山村。同町の中心部から約10Km離れた同町の南端、標高500～690mの山間地に位置する。総人口870人、総世帯数326戸、そのうち206戸が農家であり、農家率は約63%（町全体では約49%）とかなり高い。また、このうち専業農家は71戸、第一種兼業農家が39戸、第二種兼業農家が96戸である。耕地面積は330ha（田274ha、畑49ha、果樹園7ha）であり、水稻、たばこ、大豆の生産が中心になっている。交通条件は、最寄りの中国自動車道院庄 I・C から町中心部までの距離は10Km程度であり、交通の便は比較的良い。

(2) 農村リゾートへの取り組み

大坩和地区は、棚田風景とともに美林にいだかれ周辺には桧、杉等の針葉樹が多く地域ぐるみで環境保全に取り組むとともに、1200年の歴史を誇る両山寺をはじめとする多くの文化遺産が残っているなど地域住民の意識が高い。また、高原の気候を生かして、リングが栽培されるな営農意識も高く、天然棚田米づくりも促進されている。これは棚田景観の保

存に取り組むため、付加価値の高い有機無農薬の米作りを推奨し、都市住民との契約によって消費者直販をおこなっている。

平成2年に指定となり、整備事業によって3年間で農家の改築、研修施設の建設や周辺を整備してきた。施設利用者は、オープン以来着実に伸びてはいるものの2施設で有料利用者は年間700人強であり、稼働率の向上が課題となっている。また、地域に残された自然環境や伝統文化、特産品等をどのようにしてリゾートと結びつけて振興を図るかが望まれる。

IV. まとめ

岡山県における農村リゾートの整備について各地の事例を分析した結果、未だ施設等のハード事業が主である。地域振興の成功例からは優れた地域のリーダーの存在がある。また、農産物を生産することが自然と一体となり、美しい農村景観を作り出してきたが、高齢化、過疎化の進行は深刻で耕作放棄も目立ち、荒地地が広がり農村環境に変化が生じている。

指定地区が増加するに伴いハード面では特色がない整備もみられる。今後は地域の独自性が問われると思われるが、今後農村リゾートとしては生き残るための戦略として次の3点が指摘される。

- ① 棚田など美しい農村風景の保全によって、観光と結びつける。
- ② 産業となるべき地域の特産品の創出によって、観光と結びつける。
- ③ 修景、植生系の保護により、自然を残すことにより、観光と結びつける。

参考文献

- 1) 岡山県企画部リゾート対策室：農村型リゾート整備事業について
- 2) 岡山県農林部中山間地域対策室：グリーンホリデー岡山
- 3) 岡山県作東町(1997)：作東町勢要覧
- 4) 作東町小房和田営農組合(1994)：能登香の里小房整備事業概要
- 5) 岡山県中央町(1996)：町勢要覧 中央夢街道
- 6) 石原照敏(1996)：営農組合主導型農村型リゾートと農業経営、観光開発と地域振興、古今書院
- 7) 石原照敏(1996)：地域経営と農村型リゾート、リゾート開発と農林業振興による農山村の活性化に関する地理学的研究
- 8) 井原満明(1996)：グリーンツーリズムの潮流と取り組み、地域開発378号